

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2492700030
法人名	医療法人 桜木記念病院
事業所名	グループホーム桜木さん・明和
所在地 (電話番号)	三重県多気郡明和町大字佐田字沼2055 (電話) 0596-55-8811
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 4 月 25 日(金)

【情報提供票より】(H20年4月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円~
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4)利用者の概要(4月8日現在)

利用者人数	10 名	男性 3 名	女性 7 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	桜木記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業者は国道23号から少し入った周りには水田がある広々とした敷地内に建てられている。管理者と職員は、常に生活の中で笑顔がたくさん見られるような事業所運営に努めている。又、一人ひとりの思いを大切に受け止めながら普通のことを普通にを大切に利用者と職員がともに参加する生活を目指して頑張っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員に意見を聞き、管理者が総合的・最終的に評価を行った。評価を実施する意義を理解し、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは町担当者、議会議員、利用者家族、桜木記念病院事務長などで開催されている。会議では事業所の状況や運営内容などについて報告し意見交換を行い協力をお願いしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からは来訪時に意見・苦情などを聴き、事業所全体でその都度対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接している保育所とは日常的に交流があり、地域の行事にも参加をしており、事業所の駐車場で地域の皆さんと盆踊りを開催するなど交流を図っている。又、老人会への加入を働きかけている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の意義を認識し、「尊び心からつくし介護させていただく」を理念にしている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールに掲示するなど日常業務において実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接している保育所とは日常的な交流があり、地域の行事にも参加をしており、又、事業所の駐車場で地域の皆さんと盆踊りを開催するなど交流を図っている。又、老人会への加入も働きかけている。		
も					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に意見を聞き、管理者が総合的・最終的に評価を行った。評価を実施する意義を理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは町担当者、議会議員、利用者桜木記念病院事務長などで開催されている。会議では事業所の状況と運営内容などについて報告し意見交換を行い協力をお願いしている。	○	地域に密着したサービスのためには、今後はテーマを決め、2ヶ月に1回程度、定期的開催されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町(包括支援センター)が主催する連携推進会議(メンバーは町内同業者など16事業所)が月1回開催され情報交換などを行い交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話や訪問時に状況報告をしている。金銭管理は出納帳を作成し、家族に確認してもらっている。	○	定期的にお便りを発行し、利用者ごとにコメントを書き加えるなど家族への報告がされるように期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは来訪時に意見・苦情等を聴き、事業所全体でその都度対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在離職者や移動がない。管理者は離職者が出ないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修はあるが、県グループホーム連絡協議会などの外部研修には参加をしていない。	○	職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会として、法人外での研修にも積極的に参加されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町担当者が主催する連携推進会議で情報交換をするなど積極的に交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐに入所していただくのではなく、必要があれば他の利用者にも慣れてもらうためにも数回の体験利用をしてもらい事業所の雰囲気に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの思いを大切にしながら、職員と利用者が一緒に助け合って生活をするという意識で支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族などからの情報や、本人との日々の会話や表情などで希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見・要望や、職員の意見を基に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは行われていないが、日々のケース記録を基に見直しを行っている。	○	利用者に特に変化がないときでも定期的(出来れば3ヶ月に1回)に家族を含めた関係者で計画の見直しをされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域での介護相談、買い物や入院中の家族との面接など支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を入所後も本人・家族の希望により事業所での診察(往診)が出来るように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行っていないが、入所時に重度化した際の対応について家族と話し、早い段階で方針を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報(桜木さんレポートin明和)の写真の掲載は本人・家族の同意を得ている。職員は日常生活で利用者のプライバシーを損なわないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など大まかな日課があるが、その日の利用者の希望や体調などに副った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をしている。食事は利用者と職員が会話をしながら楽しいひとときを過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回となっているが、希望があれば毎日入浴が出来るように配慮している。利用者の希望や体調などを確認しながら入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・片付け、洗濯等利用者が自分にあった役割で日々の生活を楽しんでいただくように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定例的には月一回のショッピングを行っているが、利用者からの希望があったときには近隣のスーパーなどに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外は玄関などには鍵を掛けていない。職員は常に利用者にも目配りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内の消防署の協力で年1回利用者とともに避難訓練、消火訓練を実施している。	○	地域の協力体制のもと定期的に実施されているが、災害はいつ起こるかわからず、さまざまな発生時間を想定される事が望まれるため、夜間の訓練も実施されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養士による献立で食事を作っている。食事量や水分摂取量は日誌に記録されており、職員全体で把握に努めている。夜間の水分についてはペットボトルを用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くリビングは明るく高級感がある。浴室・トイレも明るく清潔である。壁には利用者の習字などを展示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室からの眺めもよく、明るく清潔で、利用者は使い慣れた物や好みの物を置き本人好みの環境にして過ごしている。		